

2021/7/13

(オマケの英語教室 深い、の反対は深くない!? “Deep” opposite word is “Not deep”!?) 書庫版



Deep というと、我が国では大抵「深い」と辞書のはじめに出てきます。

ですが私どものカレーレストランでは deep というと「濃い」というのが普通です。

例えば deep taste といえば「濃い味」を指します。

日本語はバリエーション（語彙）が多いので

昔のインスタントコーヒーのコマーシャルではありませんが「違いの分かる男」の修飾キャッチフレーズとして、例えば

「深い味わい」とか

「コクのある味」とか

「重厚な風味」とか

「格別の味覚」とか

いろいろ出てきます。

共通するイメージとしては「奥底に秘匿された重厚、濃密、豊潤なもの」とでも申しましょうか。

他にも deep learning といえば近頃はやりの「深層学習」ですし、deep opinion といえば「含蓄のあるお言葉」などがあります。

このようにいろいろな使い方ができる幅広い意味を持った使い勝手のいい言葉が deep なのですが、その反対語、即ち「深い」の反対で「浅い」という英単語は何かな？と思い返してみたら、何と「全然知らない」事に気づきました。あらまっ。

そこで、辞書を引かずにその単語の扱いをどうしたものかと考えてみましたところ、結構すぐに見つかりました。

「浅い」曰く

Not deep 「深くない」

「えっ、そんなんでもいいの？」

ともし思われた方がいらっしゃれば、それは高校受験の採点官さんが

「浅いが not deep!! ざけんじゃねえ。てめえ、採点官をおちよくとん、かいな？ あん？ こういう奴は絶対に落としたる」

というのと同列です。

試験では×でも、現場では正々堂々「あり」なのです。

こういうところが職場ごとの現場英語と TOEIC、TOEFLE 英語の根本的な違いだのだと自分は思っております。

因みに「そんなに深くはない＝ちょっと浅い」くらいのことを言いたいのなら

Not so deep で十分なのです。

Deep だけ使っても、その反対語、或いは中間のグラデーション語も表現できるのが英語なのだと思います。

基本は「ジャストじゃなくても、知っているもの（今あるもの）を使い、代用する」というスタンスです。

そうまでする原動力は「相手に伝えたい、分かってほしい気持ち」だけです。

追記)

辞書で調べましたら「浅い」という形容詞は「shallow」と出ました。

それにしても、こんな英単語、生まれて初めて目にしました。印象が強く残ったので、案外逆に覚えてしまうかもしれませんね。

まあ、この英単語は余裕があれば使ってみる位でいいのではないのでしょうか。

大切なのは Not を使うという「緊急手段」を持った事で余裕が生まれ、リラックスして話せるようになる事だと思っております。